文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信〔コ01〕

研究組織　西和彦、松浦一之介（2021年10月から）、藤澤綾乃、石田智香子（以上、文化遺産国際協力センター）、二神葉子（文化財情報資料部）、石村智（無形文化遺産部）、境野飛鳥（客員研究員、2021年7月まで文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー）

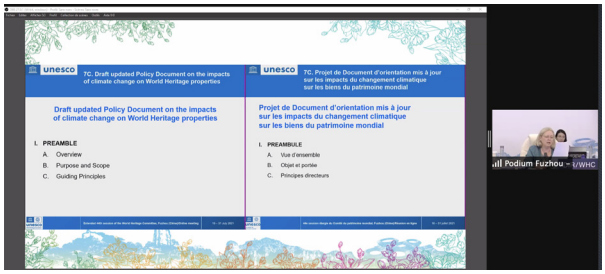
目　　的　海外の文化遺産に関する情報の収集、諸外国の文化遺産保護施策等に関する調査を行う。国際情勢に鑑みつつ優先度の高い国の文化遺産保護関連の法令について条文を和訳し、法令集として刊行する。また世界遺産委員会などユネスコ等が行う主要な国際会合へ出席して情報の収集を行うとともに、文化遺産の保護をめぐる今日的な課題等に関する調査研究を行い、その成果をインターネットなど多様な媒体を通じて国内外に情報発信する。

成　　果

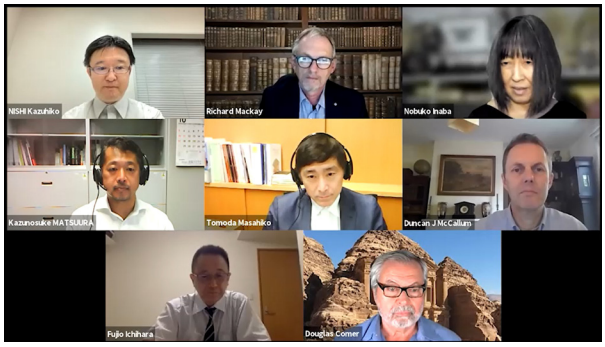
1. 文化遺産保護に関する情報収集のための国際会議やシンポジウム等については、世界遺産委員会等を始めとして、第32回国際文化財保存修復研究センター総会などそのほぼ全てが新型コロナウイルス感染症の影響によりオンライン開催となった。これらに参加して情報収集を行った。
2. 文化遺産保護関連の法令の収集・分析及び翻訳作業については、カナダ政府の元担当者に依頼したカナダの文化財保護制度の概説を含む『各国の文化財保護法令シリーズ [26] カナダ』を刊行した。
3. 例年行っている「世界遺産研究協議会」については、令和２年度に引き続き我が国の文化財の「整備」をテーマとして取り上げ、オンライン配信のかたちで開催した。

刊行物

- 『各国の文化財保護法令シリーズ [26] カナダ』東京文化財研究所　22.3
- 『世界遺産研究協議会「整備」をどう説明するか（第２部）』東京文化財研究所　22.3



中国・福州で開催された拡大第 44 回世界遺産委員会（オンライン）



令和３年度世界遺産研究協議会第２部討論会

保存科学研究センター　プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等

第３回保存環境調査・管理に関する講習会 ― 空気清浄化のための化学物質吸着剤 ―

（②ホ02の一部として実施）

本講習会は、保存環境の調査、評価方法、また、環境改善や安全な保管のための資材・用具等に関して、高いレベルでの共通理解を得ることを目的としている。第１・２回は文化財活用センター主催で開催されたが、第３回は同センターと東京文化財研究所が共同で開催した。テーマは「化学物質吸着剤」で、適切な化学物質吸着剤の選択と効果的な使用に不可欠な、吸着現象、吸着剤の原理や構造、吸着効率に関わる環境要因等への理解を深めるために、これらについて科学的見地から解説を行った。

日　時：2022（令和４）年１月31日（月）　13:30 ～ 16:00
会　場：東京文化財研究所　会議室
主　催：東京文化財研究所、文化財活用センター
参加者：30名

講演者：
吉田直人（文化財活用センター）「展示・収蔵空間における空気環境の問題と現状について」
中平卓矢（ピュアテック株式会社）「吸着現象と化学物質吸着剤の科学」

保存科学研究センター　プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等

文化財修復技術者のための科学知識基礎研修

（②ホ05の一部として実施）

近年、文化財の保存修復に関する科学的研究が大きく進み、様々な知見が得られている、一方で、その知見を読み解き、現場で活用する力も文化財修復の上で必要とされてきている現状がある。
本研修では、文化財修復に必要とされる科学の基礎的な知識についての普及を目的とし、最新の研究成果を盛り込みつつ、文化財修復現場で直接必要となる情報を講義した。

日　時：2021（令和３）年９月29日（水）～10月１日（金）
会　場：東京文化財研究所　会議室
参加者：15名

１．科学知識基礎１、２　早川典子
２．溶液と接着について　早川典子
３．伝統接着剤１（糊、フノリ）　早川典子
４．伝統接着剤２（漆・膠等）　早川典子
５．紙の科学　加藤雅人
６．実験器具・薬品の取り扱い　倉島玲央
７．生物対策　佐藤嘉則

文化遺産国際協力センター　プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等

令和３年度世界遺産研究協議会　『整備』をどう説明するか

（③コ01の一部として実施）

令和２年度から続く第二部として、我が国の文化財における「整備」を国際的観点から俯瞰し、これを対外的にどのように説明するかというテーマに関して研究協議会を実施した。開催形態は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を鑑みオンライン開催とした。また、内容自体が翻訳に関わるものであることから、同時あるいは逐次通訳では十分に意図が伝わらない可能性があると考えられたため、日本語字幕を付すかたちで申込者に限定した動画配信とした。

日　時：セッション１：2021（令和３）年８月30日（月）～ 10月１日（金）　公開
　　セッション２：2022（令和４）年１月14日（金）～２月25日（金）　公開
会　場：動画配信
参加者：270名

内　容：
セッション１【事例報告】
　高田和徳（御所野縄文博物館）「変化する遺跡公園　―実験・検証による整備とその活用―」
　吉岡泰英（元福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館）「『史跡公園』を目指した一乗谷の史跡整備」
　Douglas Comer（Cultural Site Research and Management）"World Heritage Authenticity and SEIBI"
　Duncan McCallum（Historic England）"The approach to reconstruction at nationally important historic sites in England"
セッション２【討論】
　Douglas Comer、市原富士男（文化庁）、稲葉信子（筑波大学）、Richard Mackay（Mackay Strategic Pty. Ltd.）、Duncan McCallum、友田正彦（東京文化財研究所）、西和彦（東京文化財研究所）、松浦一之介（東京文化財研究所）

文化遺産国際協力センター　プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等

考古学と国際貢献：イスラエルの考古学と文化遺産

（③コ02の一部として実施）

文明揺籃の地であるユーラシア大陸南西部には多くの考古遺跡が存在し、欧米を中心とした調査隊が19世紀から発掘調査を行ってきた。同地域に対しては日本も同様に調査研究の膨大な蓄積があり、さらに近年では、遺跡を有する国の研究者が主体となった調査も盛んに行われるようになっている。中でも文化遺産保護の熱心な取り組みがみられるイスラエルを対象に、同国の実務者より国立公園として進められている史跡整備の現状について、また日本国内の研究者による同国の考古学及び関連分野の研究についての講演を行うとともに「考古学と国際貢献」をテーマとした講演者によるパネルディスカッションを行った。

日　時：2022（令和４）年２月20日（日）14:00 ～ 17:00
会　場：ウェビナー
　　使用言語　日本語・英語（同時通訳）
参加者：76名

プログラム：
趣旨説明　金井健（東京文化財研究所）
講演
　ゼエヴ・マルガリート（イスラエル国立公園局保存開発部長）「イスラエル国立公園における考古遺跡の管理」
　ドロール・ベン＝ヨセフ（イスラエル国立公園局北部地区担当官）「ローマ時代初期のガリラヤ地方ー考古学的視点からー」
　間舎裕生（東京文化財研究所）「日本の調査隊によるイスラエルの考古学調査の歴史」
　岡田真弓（北海道大学観光学高等研究センター准教授）「イスラエルにおける史跡整備と国立公園制度の役割」
　長谷川修一（立教大学文学部キリスト教学科教授）「イスラエルにおける遺跡保存と活用の課題ーテル・レヘシュの例からー」
パネルディスカッション
　モデレーター　長谷川修一
　パネリスト　ゼエヴ・マルガリート、ドロール・ベン＝ヨセフ、岡田真弓、間舎裕生

刊行物：『考古学と国際貢献：イスラエルの考古学と文化遺産　研究会記録』東京文化財研究所　22.3

文化財情報資料部　プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等

総合研究会（④シ）

総合研究会は、各研究部・センターの研究員がプロジェクトの成果や経過を発表し、その内容に関して所内の研究者間で自由に討論する場である。令和３年度は下記のスケジュールで開催した。